

## 記憶障害患者へのグループ訓練の試み(その2)

坂本一世\* 中島恵子\* 水品朋子\* 本田哲三\*

### はじめに

記憶障害を有する患者に対し、メモや手帳等の代償手段の利用を促すことは、その簡便さからしばしば用いられる方法である。作業療法(以下OT)でも、これらの手段を使いこなすための訓練を行う。しかし、病院という限られた空間の中で、実際にメモを取ったり、手帳を使ったりする場面に変化を持たせるには限界があり、メモをとることの必要性を意識づけるには苦勞を伴う。

今回われわれは、グループでの訓練場面を利用して、記憶障害患者に、メモや手帳を実際に使いこなす場面を提供した。その結果、手帳などの代償手段の利用状況に、改善が認められたので報告する。

### 1. 目的

- (1) グループ訓練を利用することにより、メモや手帳を実際に活用する場面を提供する。
- (2) メモや手帳の実用性を評価する指標として、手帳活用検査を実施し、訓練導入前と終了後の結果を比較する。

### 2. 方法

#### a. 訓練内容

今回のグループ訓練でOTが主に担当した項目は、①1週間の出来事を振り返っての発表、②お茶会の準備・実行、③服薬と金銭の管理である。これら全ての活動は、メモや手帳を使用することを目的として行った。

第3回から10回の1週間の出来事を振り返って発表する課題は、使用している手帳や日記を参照しつつ、「印象に残ったこととその日時」、「思い出せなかったり、覚えていられなくて困ったこと」を一人ずつ話してもらった。

お茶会の準備では、第4回の訓練時に第5回で行うお茶会の計画を患者にたててもらった。具体的には、お茶会に必要な飲み物やお菓子等を話し合い、購入する物品をリストアップしてもらった。その際、誰が何を購入するかを分担し、レシートを忘れないように意識づけ、それらの物品をレシートともに持参することを、手帳や訓練用ノートに記載してもらった。第5回訓練で実際にお茶会を行った。

服薬と金銭の管理についての課題では、第6回の訓練時に、服薬と金銭の管理の現状について、各自振り返り発表してもらった。その後は服薬と出費の状況を、各自が明確に把握できるようにチェックシートを作成し、記入することにした(表1)。第7回でシートの記入方法の説明と練習を行い、第8回から10回の訓練時に自宅で記入してきたシートを元に、どの程度記入ができたかを全員で確認しあった。

#### b. 評価方法

##### (1) 手帳活用検査

現実場面で、手帳をどの程度使いこなしているかを評価するため、手帳活用検査を作成した。この検査の評価項目は以下の10項目である。①検査当日中に、担当者に電話する、②指定された日に担当者に電話する、③当日中に指定の封筒を投函する、④指定された日に、指定の封筒を投函する、⑤当日指定のテレビ番組を見て、感想を手帳

\* 東京都リハビリテーション病院

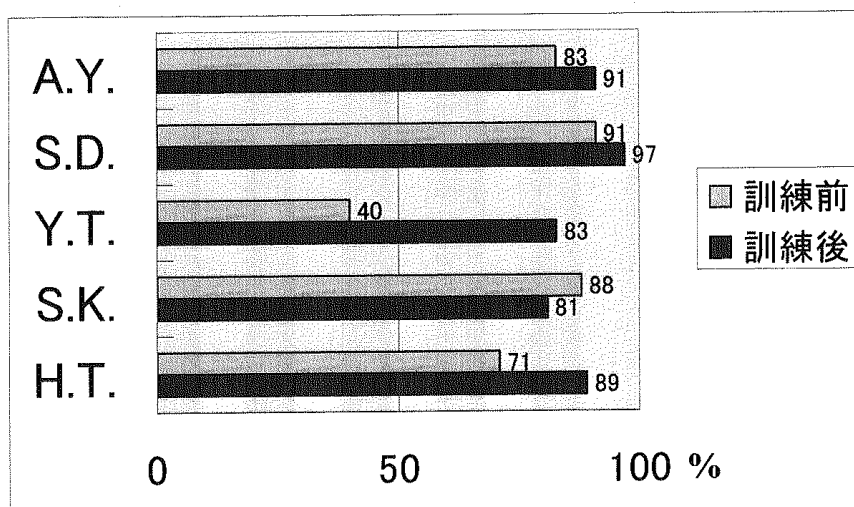


図1 手帳活用検査の得点の変化

表1 服薬・お金チェック表

日付	朝食		昼食		夕食		日付	主な使い道	支出合計
	メニュー	服薬	メニュー	服薬	メニュー	服薬			
		※							

※○：できた ×：できない

や日記に書く、⑥次回の訓練に、指定された物を持って来る、⑦五つの物品をOT室から探し出す、⑧売店で指定された物を買う、⑨当日、OT⇨心理間の伝言を伝える、⑩指定された日、主に次の訓練日に、OT⇨心理間の伝言を伝える。対象者には各項目の指示内容を手帳等にメモし、指定したタイミングで実行することを求めた。10項目中6項目が、当日に行う内容で、そのうち3項目が、帰宅後に行う内容であった。残りの4項目は、指定された日に行う内容であった。各項目の評価基準は、記入の自発性（自発的/促し要）・記入場所（適切/不適切）・記入内容（正確/不足・誤り）を2段階で、行動の達成度（完全/不完全/不可）を3段階で評価した。

## (2) アンケート

対象者自身に、使用している代償手段の使用頻度を、使用している種類別に、A：たびたび使用、B：時々使用、C：まれに使用、D：使用していないの4段階で答えてもらった。

さらに、個々の訓練項目に対する感想を、本人と家族それぞれに自由に記載してもらった。

## 3. 結果

### a. 手帳活用検査

手帳活用検査の結果を図1に示した。横軸が得点をパーセントで示し、縦軸が各対象者を示して

表2 代償手段の使用状況の変化

	手帳	日記	カレンダー	スケジュール帳
A.Y.	A → A	D	D	D → A
S.D.	A → A	D → A	D	A → A
Y.T.	D	D → B	A → A	D
S.K.	D	D	D	A → B
H.T.	C → A	D → A	D	D

使用状況 A：たびたび使用 C：まれに使用  
B：時々使用 D：使用していない

いる。訓練前と終了後で比較すると、5人中4人に改善が認められた。

#### b. アンケート（手帳等の使用頻度について）

表2にはアンケートの結果を示した。グループ訓練を行っている間に、日記をつけるようになった者が3名、手帳とスケジュール帳の使用頻度に改善を認めたものが2名であった。

#### c. お茶会

全員が忘れることなく、分担した物品を持参し、レシートを提出した。

またアンケートでは、「責任を果たすことで、自信が持てたようだ（A.Y.家族）」「集団の中で役割をかせられたことが嬉しかったようで、買い物やレシートの保管も積極的に行っていた（S.D.家族）」という意見が出された。

表3 服薬と金銭の管理  
(服薬と出費の記録日数)

	服薬			出費		
	8回	9回	10回	8回	9回	10回
A.Y.	11/14	7/7	7/7	4/14	5/7	7/7
S.D.	服薬なし			5/14	7/7	7/7
Y.T.	5/14	0/7	5/7	5/14	0/7	4/7
S.K.	14/14	7/7	7/7	3/14	7/7	0/7
H.T.	3/14	0/7	0/7	11/14	5/7	6/7

記録できた日数/全日数

#### d. 服薬と金銭の管理

表3に、服薬・お金チェック表の記入状況を示した。多少のばらつきはみられたが、全体的に回を重ねるごとに、記入できる日数は増えていた。

## 4. 考 察

今回われわれが考案した手帳活用検査において、改善を認めた4例は、アンケートにおいても、手帳等の外的代償手段の使用頻度に改善を認めており、それらの活用状況は、各自の自己評価とも一致していた。以上より、個別訓練で使用方法を学習していた手帳等の代償手段を、実際に活用する場面がグループ訓練で提供されたことで、実用性が向上したのではないかと考えられた。

\*本研究は第35回日本作業療法学会で発表予定である。